

(対話を通じたカレッジキャピタル醸成のための「哲学カフェ」 に関するメソッドを学ぶ)

代表者 長井 遥斗 (スポーツ総合課程 4年)

1. 目的と概要

本プロジェクトは、カレッジキャピタル(鹿屋体育大学内におけるソーシャルキャピタル)の醸成を目指し、代表者らが学内で実施している「哲学カフェ」をより充実したものにするため、その実施法などに関するノウハウを学ぶことを目的とした。

概要として、代表者ならびに構成員の2名は国内における「哲学カフェ」開催の先駆的団体である「カフェフィロ」主催の哲学カフェに参加者および主催者として参加し、その様子を体験することで学びを得た。得られた学びは代表者と構成員それぞれが整理し、我々がけいぞくしていた本学内での哲学カフェ実践の活動に反映させることで生かされた。

2. 実施期間

6月中旬～11月中旬の4カ月

3. プロジェクトの実施内容

①カフェフィロ代表者へ連絡を取り訪問させていただく日時の決定。

電子メール、インスタグラムのダイレクトメッセージ機能を使用して連絡を取り、訪問日時を決定した。

②カフェフィロ実施の対話およびイベントへの参加

7月「びわこ哲学カフェ」と11月「カフェフィロ20周年の集い」に参加
詳細は2026年3月12日発表の資料を参照いただきたいです。

③訪問した各対話およびイベントでの学びを整理

当日適宜メモした内容や撮影した写真、録音した音声データなどをもとに当日の学びを整理した。

④代表者らが学内で実施している哲学カフェにおける実装・実践

後期（10月）以降の哲学対話でカフェフィロでの学びを生かした対話を行っていった。

⑤自己評価、相互評価、参加者の声を整理し活動の振り返りの実施。

相互評価では、構成員である永岡は代表者が作成した評価観点のうち大半の評点が向上する結果であった。また、継続して集計していた参加者の声はプロジェクト実施前と後とを比較し、本人の変化に関するコメントが多かった結果から、哲学カフェの場そのものを評価するコメントが増加する結果となった。

4. プロジェクトの成果・学内や地域への波及効果

本プロジェクトの成果は、3の内容でも述べた通りプロジェクトを通して、哲学カフェにおける、代表者と構成員の行動変化と参加者の声の質が変化したことにあると考える。哲学カフェを主催する代表者と構成員が本プロジェクトの学びを受けて、実践方法や対話の場を考えなおすことができたことで、参加者の実感が変化していったものとする。

少数の参加者ではあったが、多様な属性の人が集まる場としてカレッジキャピタルが醸成されるきっかけを作ることができてきたと考えている。

5. 反省点・今後の展望(計画)・感想等

- ・訪問先でのインタビューなどを充実させればよかった。
→なぜ哲学カフェが必要か？という部分の補強
- ・今後も他の哲学カフェに積極的に参加することで学び続ける
- ・学内で実施している哲学カフェの参加の敷居を下げることと、実施の周知

6. 実施メンバー

代表者 長井 遥斗 (スポーツ総合課程 4年)

構成員 永岡 勇次郎 (スポーツ総合課程 4年)

7. 執行経費内訳

配分予算		115,899 円		
執行経費 (品目等)	数量	単価 (円)	金額 (円)	備考
7月31日びわこ哲学 カフェ 航空券(往復)	1名		25650	
11月16日カフェフ ィロ20周年の集い 航空券(往復)	2名		50958	
宿泊費	1名		39291	